

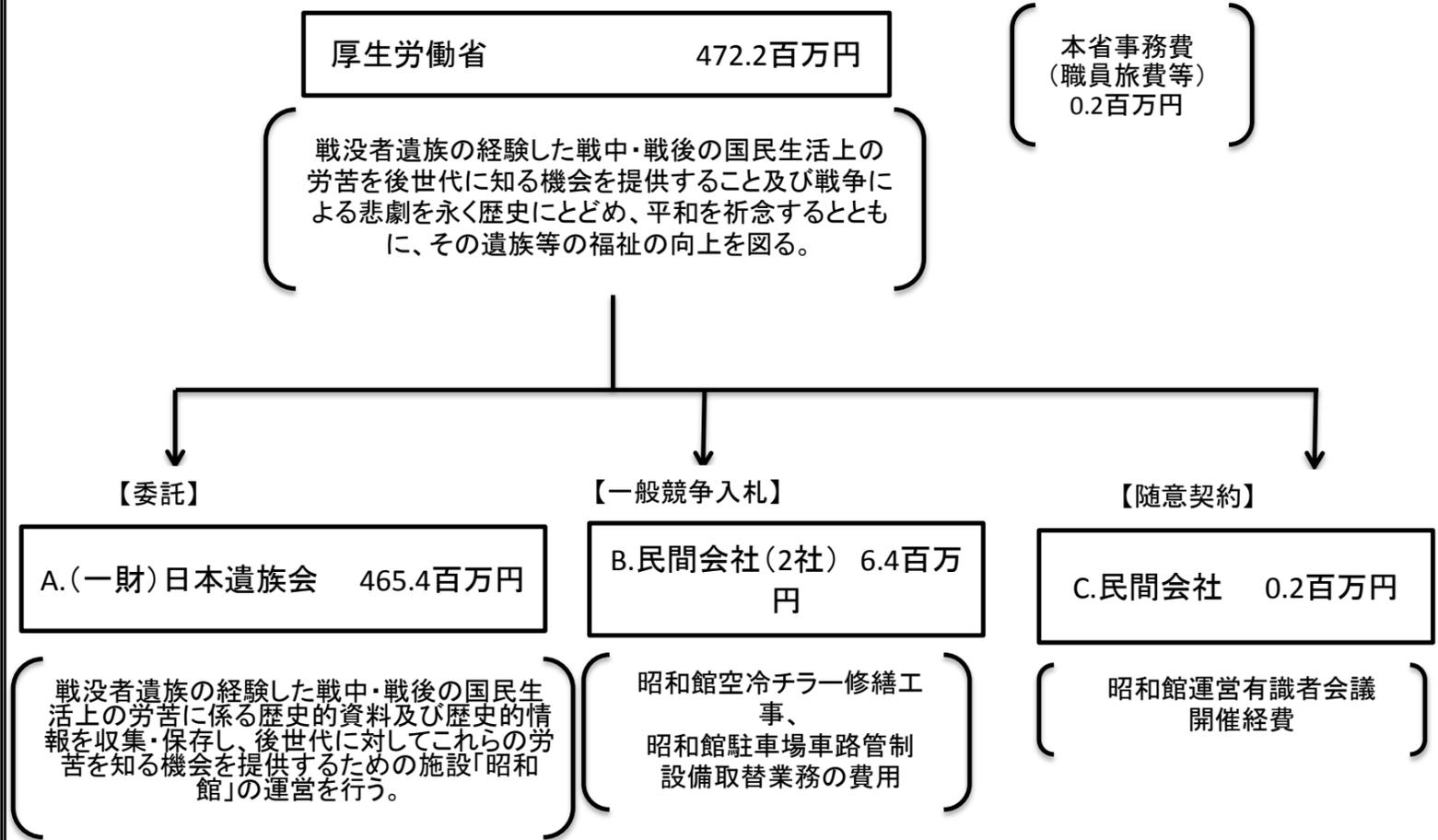
平成27年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	昭和館運営等事業			担当部局庁	社会・援護局			作成責任者	
事業開始年度	平成11年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	援護企画課			井原 辰雄	
会計区分	一般会計			政策・施策名	Ⅶ-3-1 戦傷病者、戦没者遺族等に対して、援護年金の支給、療養の給付等の援護を行うこと				
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	昭和館運営委託費の交付について(平成27年4月9日厚生労働省発社援0409第16号) 遺族及留守家族等援護活動費の国庫補助について(平成27年4月9日厚生労働省発社援0409第20号)				
主要政策・施策				主要経費	恩給関係				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	戦没者遺族の経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を次世代に知る機会を提供すること及び戦争による悲劇を永く歴史にとどめ、平和を祈念するとともに、その遺族等の福祉の向上を図ることを目的とする。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	平成11年度より、主に戦争に関する歴史的事実のうち、戦没者遺児をはじめとする戦没者遺族の経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料、情報を収集及び保存することにより、次世代に戦中・戦後の国民生活上の労苦を知る機会を提供する「昭和館」を運営する。また、平成14年度より、対馬丸記念館という、地域住民の交流の場において、高齢化した戦没者遺族等を含めた地域住民に対するメンタルヘルズ相談、生活相談、その他生活上の各種相談及び遺族の内面的心情に関する事例調査研究並びに地域に密着した各種相談講習会を行う遺族相談事業を実施する。								
実施方法	委託・請負								
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求			
		当初予算	451	443	478	507	480		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	451	443	478	507	480		
執行額	450	443	477						
執行率(%)	100%	100%	100%						
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度	
	平成27年度に昭和館の来館小中学校数を前年度以上にする。	昭和館の小中学校の来校数	成果実績	校	481	464	600		
			目標値	校	434	481	464	600	
			達成度	%	110.8%	96.5%	129.3%		
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度	
	平成27年度に対馬丸記念館の遺族相談事業、地域連携事業、地域相談講習会の参加者数を前年度以上にする。	対馬丸記念館の相談事業、地域連携事業、地域相談講習会の参加者数	成果実績	人	124	158	111		
			目標値	人	253	124	158	111	
			達成度	%	49%	127.4%	70.3%		
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込		
	昭和館における広報資料の小中学校への送付箇所数	活動実績	箇所	32,349	37,724	37,403			
		当初見込み	箇所	45,284	32,349	37,724	37,403		
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込		
	対馬丸記念館における遺族相談事業に係る広報資料の送付箇所数	活動実績	箇所	1,500	2,400	2,029			
		当初見込み	箇所	2,803	1,500	2,400	2,029		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込		
	昭和館の執行額/昭和館の入館者数	単位当たりコスト	円	1,510	1,409	1,257	-		
		計算式	X/Y	438,337,000/290,244	431,446,000/306,295	465,368,000/370,311	-		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込		
	対馬丸記念館における遺族相談事業の執行額/対馬丸記念館の相談事業、地域連携事業、地域相談講習会の参加者数	単位当たりコスト	円	39,226	30,785	43,820	-		
		計算式	X/Y	4,864,000/124	4,864,000/158	4,864,000/111	-		
平成27・28年度予算内訳(単位:百万円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由					
	諸謝金	0	0	終戦70周年事業終了に伴う減、「新しい日本のための優先課題推進枠」6					
	職員旅費等	0	0						
	庁費	0	0						
	各所修繕	5	6						
	遺族及留守家族等援護事務委託費	497	469						
	遺族及留守家族等援護活動費補助金	5	5						
	計	507	480						

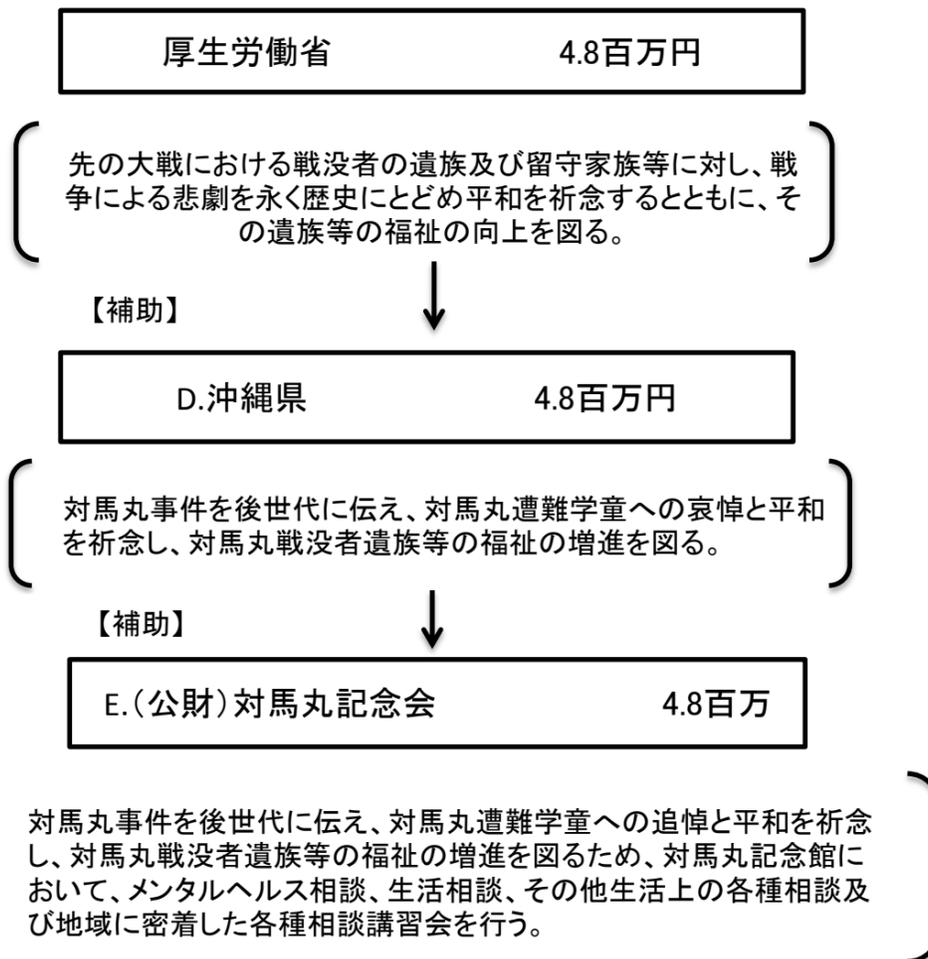
事業所管部局による点検・改善						
		項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	本事業の目的である戦没者遺族の戦中・戦後の労苦の次世代への継承及びその遺族の福祉向上を図ることは国の責務であり、国が実施すべき事業である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	本事業の目的である戦没者遺族の戦中・戦後の労苦の次世代への継承及びその遺族の福祉向上を図ることは国の責務であり、国が実施すべき事業である。		
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	戦没者遺族の戦中・戦後の労苦の次世代への継承及びその遺族の福祉の向上を図ることは重要であり、優先度の高い事業である。		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	一般競争入札を実施し競争性の確保に努めているが、昭和館の運営事業については、「昭和館運営委託費交付要綱」に基づき、一般財団法人日本遺族会に委託している。当該団体は、戦没者遺児記念館(仮称)基本構想(平成4年8月)により、労苦を自ら体験した戦没者の全国組織である団体が最適であるという意見から選定したものである。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	実績を元に必要最小限の予算計上に努めている。		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	本事業は、昭和館運営事業費や遺族の福祉向上のための補助事業費となっており、必要費目に限定されている。		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-		
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		-	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		○	概ね見込みどおりの実績となっている。		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	本事業では、労苦を次世代に伝えるための展示施設を運営し、多くの入館者数を集めていること、遺族等を一同に集めた健康相談を実施していることから実効性の高い手段となっている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	概ね見込みどおりの実績となっている。		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-	-		
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		○	当課の事業は対馬丸戦没者遺族等の福祉の増進を図ることを目的としているのに対し、内閣府の事業は対馬丸事件を次世代に伝えることを目的としており、事業の実施目的が異なることから、適切な役割分担を果たしている。		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名			
	内閣府	82	沖縄の戦後処理対策に必要な経費			
点検・改善結果	点検結果	昭和館運営事業については、事業開始以来、一定の入館者実績があり、実効性の高いものとなっている。平成26年度入館者数は、開館以来最多となっており、予算規模、支出もそれに見合った適正なものとなっている。今後は、より一層の入館者の増を図るとともに、次世代への継承を視野に入れた事業を行っていく必要がある。対馬丸記念館の遺族相談事業についても、事業開始以来、一定の参加者実績があり、実効性の高いものとなっている。今後は、より一層遺族の高齢化に対応した事業を行っていく必要がある。				
	改善の方向性	昭和館運営事業については、運営有識者会議を開催し、事業の方向性や課題について議論しているが、平成27年度は戦後70年にあたるため、今後は次世代への継承をより一層進めていく必要がある、それを踏まえた予算措置を行っていく。対馬丸記念館の相談事業については、一定の実績があるため、引き続き必要な予算措置を行っていく。				
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
事業内容の一部改善	点検結果は妥当であるが、より一層の入館者の増加を図るための事業については、真に効果の大きいメニューに重点化すること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
執行等改善	戦後70周年事業にかかる経費を削減するとともに、入館者数の更なる増を図るため、他館との連携を推進する等の執行改善を行う。					
備考						
-						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年度	456	平成23年度	414	平成24年度	360	
平成25年度	725	平成26年度	723			

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

①昭和館に係る経費



②遺族及留守家族等援護活動費補助金



資金の流れ
(資金の受け取
り先が何を行っ
ているかについ
て補足する)
(単位:百万
円)

費目・用途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と用途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.(一財)日本遺族会			E.(公財)対馬丸記念会		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
人件費	昭和館の運営に係る職員給与、諸謝金、非常勤報酬等	153.4	事務費	健康相談及び生活相談事業に必要な消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、借料及び損料、賃金に係る経費	3.6
展示事業経費	昭和館の展示事業等に必要な展示資料収集費、映像資料関連経費、情報機器関係費等に係る経費	133	諸謝金	生活相談員に対する謝金	1.2
施設維持管理費	昭和館の施設維持管理に必要な経費	81.5			
事務費	昭和館の運営に必要な備品購入費、消耗品費、通信運搬費、光熱水料、印刷製本費等に係る費用	71.5			
特別企画展経費	昭和館の趣旨がより深く理解されるために開催する特別企画展に必要な経費	24.6			
来館促進経費	昭和館の普及啓発に必要な経費	16.7			
職員旅費	昭和館の運営に係る職員の旅費	3			
入館料等収入	昭和館来館者の入館料及び駐車場使用料等	▲18.3			
計		465.4	計		4.8
B.日信防災(株)			F.		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
各所修繕	昭和館駐車場車路管制設備取替業務	4.1			
計		4.1	計		0
C.100万円を超える支出がないため省略			G.		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.沖縄県			H.		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
事務費	健康相談及び生活相談事業に必要な消耗品費、印刷製本費、通信運搬費、借料及び損料、賃金に係る経費	3.6			
諸謝金	生活相談員に対する謝金	1.2			
計		4.8	計		0

支出先上位10者リスト

A.(一財)日本遺族会

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(一財)日本遺族会	戦没者遺族の経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料及び歴史的情報を収集・保存し、次世代に対してこれらの労苦を知る機会を提供するための施設「昭和館」の運営を行う。	465.4	-	-

B民間会社

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日信防災(株)	昭和館駐車場車路管制設備取替業務	4.1	1	95.9%
2	東芝キャリア株式会社	昭和館空冷チラー修繕工事	2.3	随意契約	-

C民間会社

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)ホテルグランドパレス	昭和館運営有識者会議に係る会場借上	0.1	随意契約	-
2	(福祉)日本盲人職能開発センター	昭和館運営有識者会議に係る速記料	0	随意契約	-
3	個人A	昭和館運営有識者会議に係る謝金、出席旅費	0	随意契約	-
4	個人B	昭和館運営有識者会議に係る謝金、出席旅費	0	随意契約	-
5	個人C	昭和館運営有識者会議に係る謝金、出席旅費	0	随意契約	-
6	個人D	昭和館運営有識者会議に係る謝金、出席旅費	0	随意契約	-

D沖縄県

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	沖縄県	先の大戦における戦没者の遺族及び留守家族等に対し、戦争による悲劇を永く歴史にとどめ、平和を祈念するとともに、その遺族等の福祉の向上を図る。	4.8	-	-

E(公財)対馬丸記念会

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(公財)対馬丸記念会	先の大戦における戦没者の遺族及び留守家族等に対し、戦争による悲劇を永く歴史にとどめ、平和を祈念するとともに、その遺族等の福祉の向上を図る。	4.8	-	-